

ステップ4…これから期待の センサ拡張ARコンピュータに挑戦

佐々木 弘隆

VRは仮想世界を見るだけなのに対してARは主に現実世界を見るものです。ARを実現するにはカメラを追加して現実世界を撮影する必要があります。目に映らない現実世界の情報もセンサから取り込むという活用できると期待されています。前章のVRコンピュータをベースにしてARコンピュータを作っていきます。

作成するセンサ拡張ARコンピュータ

現実世界に仮想画像を重ねるのがARなら、普通に風景を見るだけで分からない情報が浮かび上がると便利そうです。そこで思い出されるのが東日本大震災などの災害です。不慣れた遠方で震災に遭遇してしまい途方に暮れた人も多かったのではないのでしょうか。

どの店で水が手に入るのか分かりませんし、夏場なら熱中症にも注意が必要です。他にも原子力発電所のトラブルも怖いです。

そこで、現実世界を映したディスプレイに次のような情報を重ね合わせるARアプリケーションを作ってみます(図1)。

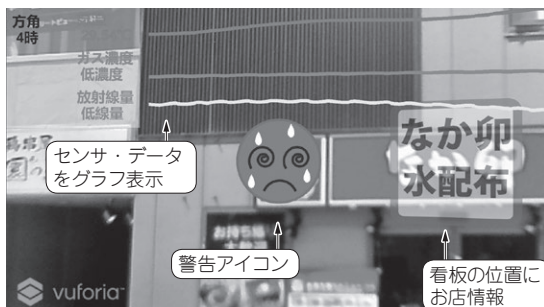
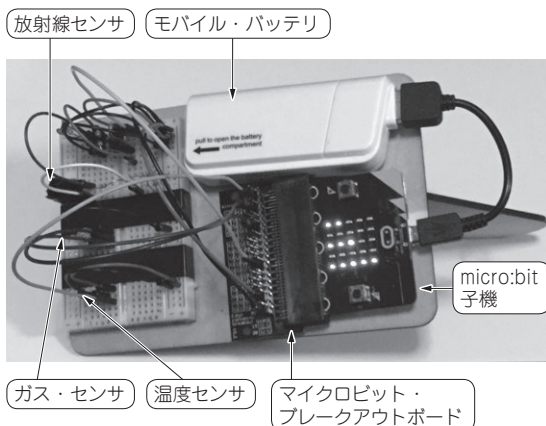


図1 現実の映像にセンサ情報を重ね合わせるARコンピュータを作る

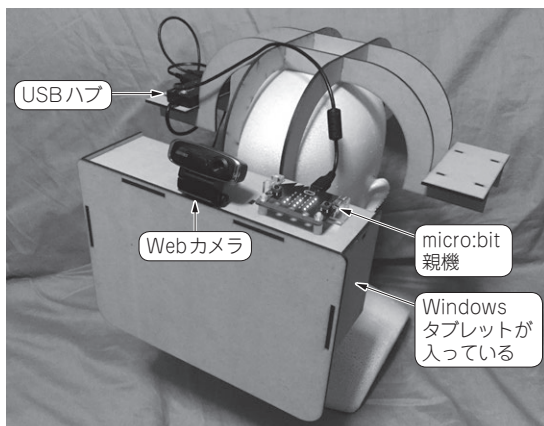
- 気温…グラフ表示して長時間高温活動をしていると熱中症警告をする
- ガス濃度…グラフ表示して危険度を通知する
- 放射線量…グラフ表示して危険度を通知する
- カメラ…風景の中に災害支援をしている店の看板を見つけたら強調表示する

このアプリケーションを「サバイバルAR」と名付けます。



(a) コントローラ側

写真1 製作したセンサ拡張ARコンピュータ



(b) ヘッドマウント・ディスプレイ側